

カクチケル語の焦点化構文についての一考察

著者	八杉 佳穂, 小泉 政利
雑誌名	東北大学言語学論集
号	21
ページ	61-70
発行年	2012-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10097/00130079

カクチケル語の焦点化構文についての一考察

八杉佳穂・小泉政利

キーワード：マヤ諸語、主要部有徴性、行為者焦点化、道具句焦点化、語順

1. はじめに

マヤ諸語のひとつカクチケル語は、グアテマラの首都のすぐ西の高地一帯で話されており、町村の数は52に及ぶ。グアテマラではメジャーな言語のひとつであり、カクチケルと認める人は100万人を超すが、長い間のスペイン語の影響下、話者数が減少し、話者は現在40万弱という(Tay Coyoy 1996, Comision 1999)。

カクチケル語の言語資料は16世紀末頃からあり、コロニアル期には、メトロポリタン言語として、大学でも講座があった(Brinton 1884)。現在、文法書や辞書、学習書、方言調査報告書、入門用CDなどがたくさん出版されており、そのため、古い資料は少ないものの、400年の言語の歴史をたどることができる。

カクチケル語はVOS型言語であるが、実際にはSVO型がより多く現れる。それにより、行為者焦点化構文の衰退、焦点化や強調のための不変化詞の多用、その不変化詞の関係代名詞化などが起こってきた。方言の変化も大きく、5短母音・5長母音の緩音・緊音化、10母音から6母音への変化などが観察できる。音韻面ばかりでなく、文法面でも多様性があり、たとえば、進行形のtan t->tan d->nd->n-への変化とともに不完全相への転化などがみられる。

そうした歴史性と地域性を考慮に入れて、語順の問題を中心に、さまざまな問題を『OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究』(科学研究費補助金基盤研究S、研究代表者：小泉政利・東北大学准教授)のもとで、2010年から分野の異なる専門家たちが共同調査、研究しているが、本論では、VOSからSVOへの変化について考察する。SVOへの変化は、スペイン語の影響とか話題は文の最初に現れる傾向が強いからといった解釈がなされうるが、本論では、カクチケル語の言語特徴に起因するのではないかという仮定のもと、名詞句が最初に現れる焦点化文について若干の考察を行う。なお、ここで用いる表記法は、グアテマラで話されているインディヘナ諸言語の表記のために1987年に定められた書記法を用いる(IIN 1988)。古典カクチケル語は独特な表記法で表わされてきたが、それも1987年に法制化された表記法に改めた。

2. 行為者焦点化文

カクチケル語の基本語順はVOSである。Sを動詞の前に置くと焦点化文になり、動詞はいわゆる行為者焦点化逆受動形をとる。行為者焦点化のマーカーMは-o/-u~-(V)nである。他動詞には根他動詞と派生他動詞があり、-o/-uをとるのは根他動詞、-(V)nをとるのは派生他動詞である。

行為者焦点化文:

Ⓔ+V-M±O±間接構成素

焦点化逆受動は行為者焦点化、関係節、疑問文、否定文の四つの場合に使われる。しかし行為者の焦点化は、Sだけを他動詞の前に出したSVO語順でも表わされる。そのため、SVOへの移行は、焦点化逆受動の衰退と関係あるように思われる。

2.1 行為者焦点化

- (1) x-Ø-u-löq ri jay ri xta Ixkaj (García Matzar et al. 1997:393)

CMP-B3-A3-buy DET house DET NC Ixkaj

「イシュカフ嬢がその家を買った」

(1)は他動詞文である。動詞が最初にあり、目的語、主語の順となる。しかしここでいう動詞は、主語である *ri xta Ixkaj* に照応する人称標識 Set A(ergative)の *u* と、目的語の *ri jay* に照応する人称標識 Set B(absolutive)の *Ø* や相接辞などが生起する動詞句をさす。動詞の方に主語、目的語の表示機能がつき、名詞の方には何もつかないので、主要部有標言語である。そのため、主語や目的語を表わす名詞句は、有性性や定不定などが手がかりになることもあるが、通常、語順で判断される。

主語を強調するために、動詞の前に置かれると、動詞はいわゆる焦点化逆受動形をとる。そして前置される主語名詞には強調の不変化詞 *ja* がつく。(2)の場合、目的語は前置詞 *richin* によって斜格化されている。目的語が主語となり、本来の主語が斜格化される受動とは逆になり、他動主語が主語のまま、目的語が斜格化されるところから、逆受動と呼ばれるわけである。しかし(3)で挙げたように、目的語がそのままの形も存在するので、逆受動という呼び名は適切とはいえず、行為者(主語)焦点化というべきであるので、ここでは以後焦点化逆受動とは言わず、行為者焦点化(AF)という術語を使うことにする。

- (2) ja ri xta Ixkaj x-Ø-loq'-o r-ichin ri jay (García Matzar et al. 1997:393)

EMP DET NC Ixkaj CMP-B3-buy-AF A3-RN DET house

「あの家を買ったのはイシュカフ嬢だ」

- (3) ja la xtän x-Ø-k'ay-in la äk (Tichoc Cumes et al. 2006:230)

EMP DET lady CMP-B3-buy-AF DET chicken

「その女性がその鶏を買った」

(4)のように、動詞は他動詞のままでも同じような意味を伝えることができる。この場合、強調の不変化詞がついているからとみることができるが、(2)でも *ja* が使われている。動詞を焦点化形にすることで行為者焦点化が表わされるので、*ja* は本来不要のはずである。ところが *ja* が焦点化文にもついているということは、焦点化の役割を弱めることになる。行為者焦点化が不要になると、他動詞形を使わざるを得ない。これがSVO語順の優越化と関係するよう思われる。

- (4) ja ri xta Ixkaj x-Ø-u-löq ri jay (García Matzar et al. 1997:393)

EMP DET NC Ixkaj CMP-B3-buy DET house

「イシュカフ嬢が家を買った」

2.2 関係文

関係文でも、主語が関係節化される場合に、焦点化形となる。しかし例文(6)にみられるように、他動の場合も許される。それは多数の方言によくみられる表現である。

- (5) la k'ajöl la x-Ø-loq'-o ri wexaj x-Ø-b'e (Tichoc Cumes et al. 2006:203)

DET boy DET CMP-B3-buy-AF DET pants CMP-B3-go

「ズボンを買った少年が行った」

- (6) ri ala' ri x-Ø-u-löq' ri wexaj x-Ø-b'e (CLK 2004:234)

DET boy DET CMP-B3-buy DET pants CMP-B3-go

「ズボンを買った少年が行った」

2.3 疑問文

(7)(8)は「誰が」と主語となる人を尋ねる場合であり、動詞は焦点化形となる。目的語を尋ねる場合は (9) のように、動詞は他動詞形である。

- (7) achike x-Ø-q'et-en (r-ichin) ri ixoq (CLK 2004:205, 210)

who CMP-B3-embrace-AF (A-RN) DET woman

「誰がその女性を抱いたか」

- (8) achike x-Ø-b'an-o re jun b'ojoy re' (Garcia Matzar et al. 1997:133)

who CMP-B3-do-AF DET one pot DEM

「誰がこの壺を作ったか」

- (9) achike x-Ø-u-tij ri utiw (Tichoc Cumes et al. 2006:260)

who CMP-B3-A3-eat DET coyote

「そのコヨーテは何を食べたか」

疑問文の場合、主語を疑問文化すると、焦点化形をとる。他動詞のままだと、疑問詞は目的語を問うことになる。S を疑問文化する場合、SO の生物階層性が異なるとき、意味的に類推可能であるが、同位であるところでは行為者焦点化しかあり得ない。

自動詞形をあげると次のようになる。

- (10) achike ri x-Ø-b'iyin pa tinamit (CLK 2004:206)

who DET CMP-B3-walk PR village

「誰が村で散歩したか」

ちなみに 17 世紀の辞書では「誰」は *naq* であり (Coto: 1604/1607~ca1656)、18 世紀の文法書でも同様である。(11)は目的語を問うた文であり、動詞は他動詞のままである。(12)は行為者を問うた文で、動詞は行為者焦点化の *-o* がついた文である。

- (11) naq x-Ø-a-kam-is-aj (Coto 1983:458)

who CMP-B3-A2-die-CAUS-TV

「誰を君は殺したか」

- (12) naq x-Ø-b'an-o (Torresano 1754:98)

who CMP-B3-do-AF

「誰がそれをしたか」

行為者焦点化の疑問文の場合は疑問化の不変化詞 *la* によって表わされる。

- (13) *la ja ri a B'alam x-Ø-loq'-o r-ichin ri jun k'oy*
 Q EMP DET NC Balam CMP-B3-buy-AF A3-RN DET one monkey
 「猿を買ったのはバラムか」 (García Matzar et al. 1997:427)

2.4 否定文

否定文においては、現在、他動詞文と行為者焦点化の両方が観察される。(15)では動詞がいわゆる焦点化したために、本来の目的語は *kichin* という前置詞により斜格化している。

- (14) *man ja ta ri achi'-a' x-e-ki-lôq' tz'i'*
 NEG EMP IRR DET man-PL CMP-B3PL-A3PL-buy dog
 「その男達は犬を買わなかった」 (García Matzar et al. 1997:412)
- (15) *man ja ta ri achi'-a' x-e-loq'-o k-ichin tz'i'*
 NEG EMP IRR DET man-PL CMP-B3-buy-AF A3PL-RN dog
 「犬を買ったのはその男達ではない」 (García Matzar et al. 1997:412)

2.5 古典カクチケル語の関係文

焦点化形について、四つの異なる構文を現代カクチケル語から挙げたが、古典カクチケル語の代表的な資料『カクチケル年代記』から行為者焦点化を選んでみよう (Otzoy 1999; Maxwell and Hill 2006)。詳しくは別稿で扱うことにして、変化の段階を示しているとみられる文をあげる。

- (16) *k'a x-Ø-utz-in winäq x-Ø-tij-o che', x-Ø-tij-o k'a xaq-i'* (Sec.4)
 then CMP-B3-good-IV man CMP-B3-eat-AF tree CMP-B3-eat-AP then leaf-PL
 「それから木を食べ、葉も食べた人がよくなった」
- (17) *xawi k'a e k'oj ki-samaj-el ri x-e-ya'-o pe ri che'*
 same then B3PL exist A3PL-work-AG DET CMP-B3PL-give-AF come DET tree
ab'äj chi q-ichin (Sec.14)
 stone PR A1PL-RN(belong)
 「同じく木と石を我らに与えた使者がいた」
- (18) *ri Tz'aqol, B'itol, Alom, K'ajolom ja x-e-tz'aq-o winäq* (Sec.5)
 DET Tz'aqol, B'itol, Alom, K'ajolom EMP CMP-B3PL-create-AF man
 「ツァコルとピトルとアロムとカホロムが人間を造った」
- (19) *wa'e' xti-Ø-nu-tz'ib'-aj jalal ki-tzij je nab'ey qa-tata' qa-mama'*
 here FUT-B3-A1-write-TV little A3PL-word EMP first A1PL-father A1PL-grandfather
je ri x-e-b'os-o winäq ojer (Sec.1)
 EMP DET CMP-B3PL-engender-AF people ago
 「ここに私は、大昔に人間を生んだ最初の我らの父、我らの祖父達のことばを少しばかり書き記そう。」

(16)は関係詞もないし、ヘッドの名詞にも何もマークがついていない。(17)は関係詞の役目を

果たす *ri* があり、(18)では *ja* という強調の不変化詞を使っている。(19)では *ja* の複数である *je* と *ri* の両方がついて *je ri* となっている。この文は *je ri* を関係詞とみて、関係節文の主語を関係節化したとみなしたが、「その人達が人間を生んだ」と二文に解釈可能である。

本来主語を焦点化するために動詞の方に *-o* という焦点化の標識がつくのであるから、前置される名詞には何もつける必要がないはずである。それをこれらの文は示している。同様関係詞も必要でないが、関係節をよりいっそうわかりやすくするために、不変化詞をつけるようになったと解釈できる。

3. 道具句焦点化文

道具句焦点化文も行為者焦点化文と同型をとる。ただし *M* は *-b'e* である。

道具句焦点化文: ①+V-M±O±S

道具句焦点化文の方が、前置の形がより鮮明にわかるので、まず 17 世紀の例を『カクチケル年代記』からひくことにする。

(20) 道具句焦点化

xa k'a r-achäq chiköp kot b'alam x-Ø-ki-chun-a-b'e-j
just then A3-excrement animal eagle jaguar CMP-B3-A3PL-lime-EP-I-TV
ru-pan che' (Sec.46)
A3-RN(interior) tree
「鷲とジャガーの糞でもって木の内側を白く塗った」

(21) 関係文

xa ja ri' najtiq simaj che' x-Ø-k'aq-b'e-x (Sec.37)
but EMP DET long sharp tree CMP-B3-shoot-I-PASS
「しかし長い木の槍でもって彼は討たれた」

(22) 疑問文

chinaq ti-Ø-q-ik'ow-i-b'e-j ch-u-wi' palow (Sec.20)
how ICP-B3-A1PL-pass-EP-I-TV PR-A3-RN(top) sea
「我々は何でもって海を越えていくのか。」

(23) 否定文

mani tan ti-Ø-k-ik'ow-i-b'e-j (Sec.15)
NEG DUR ICP-B3-A3PL-pass-EP-I-TV
「何かでもって越えていくものがない。」

18 世紀の資料でも、前置された名詞には何もつかず、動詞に *-b'e* がつく。

(24) way t-Ø-in-watasi-b'e-j meb'a

tortilla ICP-B3-A1-feed-I-TV poor
「トルティリヤパンで貧乏人を養う」(Torresano 1754:101)

道具句は動詞のあとに置かれると前置詞が必要である。しかし前置されると不要になる。その代わりに、動詞の方に *-b'e* がついて、前置される名詞句が道具句であることを知らせる。

例文(26)のように、*-b'e* をつけず、他動詞のままで *wi* がそのあとに置かれる文もある。前置化を知らせるために動詞のあとに置かれる *wi* は、場所句や間接目的語など、文の間接構成素が前置されるときに生起するものである。

- (25) x-Ø-in-kam-isa-j tz'ikin chi ab'aj
CMP-B3-A3-die-CAUS-TV bird PR stone
「私は石で鳥を殺した。」

- (26) ab'aj x-Ø-in-kam-isa-j wi tz'ikin
stone CMP-B3-A3-die-CAUS-TV FM bird
「石で私は鳥を殺した。」 (Torresano 1754:108)

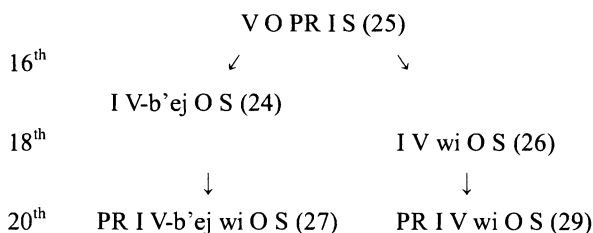
現代カクチケル語では、前置詞が義務的であり、動詞には *-b'e* がつき、さらにもとあった場所に *wi* という不変化詞が生起する。

- (27) chi ikāj x-Ø-u-choy-o-b'e-j wi ri che'ri achi
PR ax CMP-B3-A3-cut-EP-I-TV FM DET tree DET man
「斧でその男はその木を切った」 (Garcia Matzar et al. 1997: 383)

しかし *-b'e* がなくても道具句焦点化文ができる。(28)の道具句を焦点化したのが(29)である。その場合、道具句が前置したしるしとして、*wi* が動詞のあとに置かれる。

- (28) x-Ø-u-kam-isa-j jun kumätz r-ik'in che'ri achi (Tichoc et al. 2006:224)
CMP-B3-A3-die-CAUS-TV one snake A3-RN tree DET man
「その男は棒で蛇を殺した。」
- (29) r-ik'in che' x-Ø-u-kam-isa-j wi jun kumätz ri achi (Tichoc et al. 2006:224)
A3-RN tree CMP-B3-A3-die-CAUS-TV FM one snake DET man
「棒でその男は蛇を殺した。」

17世紀からの道具句焦点化文の変化の歴史をたどるとつぎのようになろう。



4. 考察

焦点化のために名詞句を前置する。そのしるしとして動詞に標識をつける。それが主要部有徴言語の特徴だからである。そして動詞の人称のマークをひとつにする。そのためには人称 B が使われる。ところが能格言語であるところから、人称 B は自動詞の主語と他動詞の目的語を表わす。ここに混乱の原因が生じる。ひとつの人称であるため、それを自動詞の主語とみるか、他動詞の目的語と解釈するか、で迷う。それが言語に反映する。たとえばハカルテコ語では目的語がマークされるのに対し、ケクチ語では主語がマークされ、目的語は斜格

となる。カクチケル語でも斜格になることがある。カクチケル語では、さらに、人称に階層性があり、1, 2 人称が優先されるので、目的語になったり、主語になる(八杉 1997:502-3)。

絶対逆受動とは目的語を省略した形である。これは対格言語からの物言いである。能格言語であるマヤ諸語では、他動の主語は人称 A であり、自動の主語は人称 B であり、両者は区別される。絶対逆受動は、意味的には他動であっても、一項であるところから、人称 B を使わなければならない。術語としては適切とは思えないが、それが絶対逆受動と呼ばれるものである。それと行為者焦点化とは機能的に異なるが、ともに人称 B を使う。それも混乱を起こす。

カクチケル語だけをみていたら不明であるが、マヤ諸語全体を見渡すと、行為者焦点化と絶対逆受動を表わす接尾辞が異なることに混乱がみてとれる。たとえば、カンホバル・グループでは、行為者焦点化は *-(o)n* であるのに対し、絶対逆受動は *-wa(j)* である。それに対しカクチケル語が属するキチェ・グループでは、行為者焦点化は *-ow/-Vn* で、絶対逆受動は *-on/-n* である。行為者焦点化も絶対逆受動もともに一項のマークしか動詞に現れないため、言語によって、両者が同一で表わされることがある。実際、マム・グループでは、行為者焦点化も絶対逆受動も *-on/-n* である。ポコム・グループでも、*-w/-Vn* で同じである。ケクチ語もどちらも *-o/-n* であるし、ツエルタル語も *-van~-on* と同じである(八杉 1997:518, Yasugi 2006:65-66, 76)。

行為者焦点化は、VOS の S を前に出す、それを動詞にマークするものである。道具句焦点化は間接構成素である道具句を前に出すもので、それを動詞の方にマークする。主要部有徴言語であるため、前に出す名詞句や道具句には何も標識がつかない。ところが主要部有徴性が弱まって、名詞句や道具句にマークをつけるようになる。前に出すものをよりはっきりさせるための手段と思われる。前に出すものをよりはっきりさせて従属部の方にマークをつけるようになったため、主要部にマークをつける必要がなくなるとみてもよい。どちらにしても、動詞の前の位置の機能が弱くなる。そうすると SVO がふつうとなるので、S を焦点化するためには、*ja* のような強調の不変化詞がいて言い換えることもできよう。

5. 結論

マヤ諸語は主要部有徴言語であり、名詞は無標である。主語順は VOS であるが、名詞は無標であるので、VNN となる。どちらの N が前置化されるかは、動詞によって示される。主語が前置される場合は、行為者焦点化形となる。目的語が前置される場合は、無標でよい。というのもマヤ諸語は能格言語であるから、目的語は自動詞の主語と同じ扱いを受ける。自動詞文は VS であるが、S を焦点化して SV となってもなんら問題ないからである。

もともと動詞の前の位置は強調するためにある。直接構成素である他動主語が前にくると、行為者焦点化形をとる。間接構成素の道具句が前にきたときも焦点化文である。SVO 形が増えるとともに、前置は焦点化の役割を果たさなくなる。そのために *ja* のような強調のための不変化詞が名詞に必要となる。動詞の方は行為者焦点化接尾辞 *-o/-u~-n* や道具句焦点化 *-b'e* をとらなくてもよくなる。動詞の前の位置が特別な意味をもたなくなったために、または焦点化の機能が弱くなったために、SVO が一般化したとみることも可能であろう。

場所や間接目的語などが前置された場合に前置化のマーカーとして動詞のあとに *wi* が置か

れるが、道具句焦点化文でも、その手法がとられている。wi はいまは独立した不変化詞とみられているが、主要部有徴性という原理からみると、-b'e の役割の代りをしているとみることができる。それは、もう一度主要部有徴性をとりもどしつつあると言い換えることができる。

*本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（S）「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」（課題番号 22222001、研究代表者：小泉政利）の助成を受けて行われた。

略号

1, 2, 3	1, 2, 3 人称 first, second, third person
A	人称 A、能格人称標識 Set A ergative person marker
AG	行為者 agentive
AF	行為者焦点化 agent focus
B	人称 B、絶対格人称標識 Set B absolutive person marker
CAUS	使役 causative
CMP	不完全相 completive
DEM	指示詞 demonstrative
DET	限定詞 determinative
DIM	指小辞 diminutive
DUR	継続 durative
EMP	強調辞 emphatic particle
EP	挿入母音、挿入子音 epenthetic vowel or consonant
FM	前置化標識 fronting marker
FUT	未来 future
ICP	不完全相 incomplete
I	道具格接尾辞 instrumental
IRR	非現実 irrealis
IV	自動詞化 intransitivizer
M	標識 marker
N	名詞化 abstract noun suffix
NC	名詞分類詞 noun classifier
NEG	否定辞 negative
O	目的語 object
PAS	受動 passive
PL	複数 plural

PR	前置詞 preposition
RN	關係名詞 relational noun
RP	關係代名詞 relative pronoun
S	主語 subject
SUF	接尾辭 suffix
TV	他動詞化 transitivity

文献

Ajsivinac Sián, Juan Esteban, Lolmay Pedro Oscar García Mátzar, et al.

2004 *Gramática descriptiva del idioma maya Kaqchikel*. Chimaltenango, Guatemala: Comunidad Lingüística Kaqchikel.

Brinton, Daniel G.

1884 A Grammar of the Cakchiquel Language of Guatemala. *Proceedings of the American Philosophical Society* 21:345-412.

Comisión de Oficialización de los Idiomas Indígenas de Guatemala

1999 *Oficialización de los idiomas indígenas de Guatemala: propuesta de modalidad*. Guatemala: Proyecto Q'anil B.

Comunidad Lingüística Kaqchikel (CLK)

2004 *Variación dialectal en Kaqchikel*. Guatemala: Academia de Lenguas Mayas de Guatemala y Cominidad Lingüística Kaqchikel.

Coto, Tomás de (ed. by René Acuña)

1983(17c) *Thesavrus Verborv: Vocabulario de la lengua cakchiquel vel guatemalteca, Nueuamente hecho y recopilado con summo estudio, trauajo y erudición*. México: Universidad Nacional Autónoma de México.

García Matzar, Pedro y José Obispo Rodríguez Guaján (GK)

1997 *Gramática Kaqchikel*. Guatemala: Cholsamaj.

IIN

1988 *Lenguas mayas de Guatemala: documento de referencia para la pronunciación de los nuevos alfabetos oficiales*. Guatemala: Instituto Indigenista Nacional y Minsiterio de Cultura y Deportes.

Maxwell, Judith M. and Robert M. Hill II

2006 *Kaqchikel Chronicles*. Austin: University of Texas Press.

Otzo, Simón

1999 *Memorial de Sololá*. Guatemala: Comisión Interuniversitaria Guatemalteca del Descubrimiento de América.

Tay Coyoy, A. (ed)

1996 *Análisis de situación de la educación maya en Guatemala*. Guatemala: Cholsamaj.

Tichoc Cumes, Rosalio, Juan Esteban Ajsivinac Sian, Lolmay Pedro Oscar García, et al. (GN)

2006 *Gramática Normativa del Idioma Maya Kaqchikel*. Guatemala: Academia de
Lenguas Mayas de Guatemala y Comunidad Lingüística Kaqchikel.

Torresano, Estevan. 1754. *Arte de lengua cakchiquel*. Ms.

Yasugi, Yoshiho

2006 El enfoque de agente en los idiomas mayas. Kazuyasu Ochiai (ed.), *El mundo maya: miradas
japonesas*, pp.63-84. Mérida: Universidad Nacional Autónoma de México.

八杉佳穂

1997 「古典ユカテクマヤ語の逆受動についての一考察」『国立民族学博物館研究報告』
22(3):491-525.

八杉佳穂 Yasugi Yoshiho (国立民族学博物館民族文化研究部 教授)

小泉政利 Koizumi Masatoshi (東北大学大学院文学研究科 准教授)